

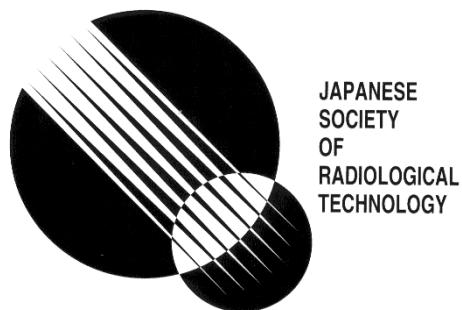
ISSN 2189-3101

JSRT, Medical Informatics

日本放射線技術学会 医療情報部会誌

Vol. 23, No.1, 44巻

Apr. 2025



公益社団法人日本放射線技術学会
医療情報部会
JSRT, Medical Informatics

目次

卷頭言 「医療情報部会、あと1年」	3
北海道科学大学 谷川原 綾子	
第81回総会学術大会（横浜） 第45回医療情報部会 予告	
教育講演	
「2040年を見据えた新たな地域医療構想を踏まえた、放射線領域の持続可能な医療提供体制」	4
富山大学 小林 大介	
シンポジウム「医療画像診断機器の適正配置について」	
経営的視点で考える医療機器の適正配置	
旭川医科大学 谷 祐児	
医療経済・データ分析の視点から診断機器の配置問題を考える	
医療経済研究機構 石川 智基	
高額医療画像診断機器（CT・MRI）の地域偏在と採算性	
兵庫県立加古川医療センター 梅宮 清	
第1回日本放射線医療技術学術大会（沖縄）学術企画 報告	
シンポジウム「医用画像領域における医療情報の再考」	
医療情報部会の学術活動について	8
熊本大学病院 川俣 祐貴	
日本医用画像管理学会 活動内容	24
広島記念病院 加藤 雅士	
日本医用画像管理学会 国際交流事業	34
株式会社フィリップスジャパン 秋田 裕介	
医療画像情報精度管理士分科会活動の今までとこれからの展望	46
白河厚生総合病院 石森 光一	
医療情報部会活動報告	
編集後記	

卷頭言 「医療情報部会、あと1年」

北海道科学大学 谷川原 綾子

このたび、2025年4月より医療情報部会の部会長を拝命いたしました、北海道科学大学の谷川原綾子と申します。これまで6年間にわたり、本部会の委員として活動の機会をいただき、数多くの貴重な経験をさせていただきました。とりわけ、私の専門分野である人工知能（AI）、その中でも自然言語処理を中心とした技術の応用や、データサイエンスに関する研究・企画に関わることが多く、実際に企画立案・実施において、多くの皆さまのご協力のもとで取り組ませていただいてまいりました。

近年では、当学会における学会誌の論文や学会発表などを通して、放射線技術と自然言語処理との融合といった、従来ではあまり注目されてこなかったテーマに関心が集まりつつあります。これに伴い、医療情報という領域そのものの研究の幅が確実に広がってきていることを、強く実感しております。これまでの枠組みにとらわれず、多角的な視点からのアプローチが行われるようになってきており、今後もこの流れが加速することを期待しています。

さて、すでにご存知の会員の方も多いかと存じますが、次年度より、当学会の部会の体制そのものが見直されることとなっております。いわゆる部会再編が予定されており、それに伴って、現在の「医療情報部会」という名称と枠組みは、本年度をもって終了することとなりました。来年度からは、これまでとは異なる新たな新たな部会が立ち上がる予定であり、そちらの中で引き続き、医療情報に関する研究活動や情報発信を進めていくこととなります。つまり、私たちが「医療情報部会」という名称のもとで活動できるのは、この1年間が最後ということになります。

そのような重要な時期に、部会長という大役をお引き受けすることになり、身の引き締まる思いでおります。私自身がこの職を務めさせていただくのも、この1年に限られますが、この1年が実り多いものであり、また次の時代につながる確かな一歩となるような活動を目指していきたいと考えています。

これまで医療情報部会として築いてきた知見やネットワークを活かしつつ、将来を見据えた取り組みにチャレンジしてまいります。会員の皆さまにおかれましては、ぜひ引き続きご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願ひ申し上げます。

どうぞ、1年間よろしくお願ひいたします。

第81回総会学術大会（横浜） 第45回医療情報部会 予告

教育講演

2040年を見据えた新たな地域医療構想を踏まえた 放射線領域の持続可能な医療提供体制

富山大学 小林 大介

団塊の世代が後期高齢者となる2025年までに高齢者人口が多く増加し医療ニーズが大きく変化すると考えられ、これまでの地域医療構想が策定され推進されてきた。しかしながらこの2025年は変化が始まる「通過点」に過ぎず、今後は高齢化が進みつつ、さらなる生産年齢人口の急激な減少も考えられ、有限である医療資源のますますの効率的な活用が求められ、医療機能の分化・連携を進める必要性に迫られる可能性が大きい。これは、見方を変えれば壮大な撤退戦を展開する必要性もあるということである。

そのような状況下で、患者推計によれば医療需要全体としては入院患者については2035年から2040年頃にピークを迎える、その後は減少すると考えられる。しかし今後の増加もいわゆる高度急性期・急性期医療ではない。そのため、経営面からも医療資源面からも需要面からも、機器や人員の一定の集約化が必要となる可能性を踏まえ、放射線領域の持続可能な医療提供体制について、データ分析を基にご説明する。

第81回総会学術大会（横浜） 第45回医療情報部会 予告
シンポジウム 「医療画像診断機器の適正配置について」

「経営的視点で考える医療機器の適正配置」

旭川医科大学 谷 祐児

日本は、CTやMRIといった画像診断機器の設置台数はOECD諸国の中でも上位を占めておりその設置台数の多さは世界でも有数なのは周知の事実である。これは、医療サービスを享受する国民（患者）にとっては利便性の向上である反面、機器を設置する医療機関にとっては、7割以上が赤字である厳しい経営環境下において大きな負担となってい。一方で、わが国では人口減少に伴う地域医療構想が加速化しており、医療資源の地域偏在の対応も含めた各地域における医療機関の役割分担の必要性が議論されている。このような環境下では、自組織だけの視点ではなく地域全体を考えた投資行動を行うことで長期的な視点に立った組織運営が可能になると考えられる。

本講演では、医療機関における高額医療機器などの大型設備投資に対して、地域性を考慮した経営的視点での考え方や留意点について解説することで、現場での考え方につなげていただければ幸いである。

第81回総会学術大会（横浜） 第45回医療情報部会 予告

シンポジウム 「医療画像診断機器の適正配置について」

「医療経済・データ分析の視点から診断機器の配置問題を考える」

医療経済研究機構 石川 智基

CT や MRI などの画像診断機器が都市部から地域まで潤沢に配置されている医療環境は、我が国特有の構造である。高額画像診断機器が、早期診断や救急治療方針等の神族な意思決定に不可欠な存在であることは論をまたない。しかしながら、社会保障費用の制約や労働人口の減少、地域高齢者人口の変動といった供給と需要の構造変化の影響を鑑みて、機器配置の適切さについて政策議論が行われてきた。画像診断技術を提供する診療放射線技師は、この議論に深く関わる立場にあると言えるもの、医療資源の配置に関する議論に参加する機会は必ずしも多くない。

本講演では、第一に、医療経済学の視点から、医療機関における設備投資と経営行動の関係性について理論的に解説し、画像診断機器の過剰な配置がもたらす経済的および医療的なリスクについて考察する。第二に、日本の画像診断に関する統計データを概観し、画像診断機器の地域分布の記述や諸外国との比較を行う。国際機関や政府機関が行ってきた関連分析を整理し、そこから導かれる課題を提示する。本講演を通じて、日本の画像診断機器の配置問題に対する新たな知見を提供し、参加者が今後の医療政策について議論できるよう支援することを目的とした講演を行う予定である。

第81回総会学術大会（横浜） 第45回医療情報部会 予告
シンポジウム「医療画像診断機器の適正配置について」

「高額医療画像診断機器（CT・MRI）の地域偏在と採算性」

兵庫県立加古川医療センター 梅宮 清

日本は、高額医療画像診断機器、特に CT や MRI の人口あたりの保有台数が先進諸国に比べて多いことがよく知られている。国民皆保険制度のもとで、誰もが安価に CT・MRI 検査を受けることができる一方で、容易に検査を受けるために不必要的検査が増えている可能性も指摘されている。また、誰もが受けられる検査であるにもかかわらず、機器設置の地域偏在により、受療の観点から不公平が生じている状況も見受けられる。

さらに医療機関ごとの稼働実態には大きな差があり、多額の投資によって導入された医療画像診断機器が効率的に活用されず、病院経営において収支を圧迫している可能性もある。本講演では、物価高騰、人口減少・高齢化と社会情勢が刻々と変化し問題視されるなか、患者ニーズに応じた公平な検査の提供に基づく高額医療画像診断機器の適正配置および機器導入に対する採算性について、臨床現場の立場から紹介する。

第1回日本放射線医療技術学術大会（沖縄）学術企画 報告

シンポジウム

医用画像領域における医療情報の再考

「医療情報部会の学術活動について」

熊本大学病院 川俣 祐貴

システム仕様書は、ソフトウェア、情報システムなどを開発する際に、備えるべき機能やその性能、特性、満たすべき要件などを図表や文章などで記述した文書であり、何を作るべきかを明確にして病院とベンダで共有するために作成される。

これまで仕様書に記述する内容については、システム要求事項やインターフェースなどの機能要件について論じられてきたが、近年、サイバー攻撃などによるシステム障害発生の事例から、システムの可用性やセキュリティ、保守体制などの非機能要件の記述が重要となってきている。また、システム導入にあたり、病院とベンダの両社間で齟齬が発生しないよう、システム基本設計書や導入スケジュールなどの資料の記述も重要である。

本シンポジウムでは、自身の仕様書作成経験に基づき、システム調達における仕様書や資料の重要な要素について解説する。

日本放射線技術学会(JSRT) 医療情報部会の学術活動について

第1回 日本放射線医療技術学術大会 (JCRTM2024)
(第40回 日本診療放射線技師学術大会・第52回 日本放射線技術学会秋季学術大会)

川俣 祐貴
日本放射線技術学会 医療情報部会委員
熊本大学病院 医療技術部 診療放射線技術部門

日本放射線医療技術学術大会COI開示

日本放射線技術学会 医療情報部会委員 川俣 祐貴

演題発表に関連し、
開示すべきCOI関係にある企業等は
団ありません。



本日の内容

- ・医療情報部会の歴史と概要
- ・活動内容について
- ・他団体との連携、認定資格について
- ・今後について

本日の内容

- ・医療情報部会の歴史と概要
- ・活動内容について
- ・他団体との連携、認定資格について
- ・今後について

医療情報部会の歴史

1980~90年代にかけて…

- DICOM(Digital Imaging and Communications in Medicine)
- オーダリングシステム
- 放射線情報システム(Radiology Information System : RIS)

日本放射線技術学会でも 医療情報に関する分野に注目が集まる

1997年 : 医療情報委員会 が発足 (初代委員長 松井美楯 先生)

2003年 : 7番目の専門部会となる 医療情報分科会 へ発展

2015年に医療情報部会へ名称変更

初代: 梅田徳男 先生 二代目: 奥田保男 先生

三代目: 坂本博 先生

医療情報部会 部会委員

部会長: 川眞田 実 (大阪国際がんセンター)

谷 祐児 (旭川医科大学)

谷川 琢海 (北海道科学大学)

谷川原 綾子 (北海道科学大学)

石川 智基 (医療経済研究機構)

坂野 隆明 (みやぎ県南中核病院)

多田 浩章 (千葉ろうさい病院)

原瀬 正敏 (豊橋市民病院)

須藤 優 (エムネス)

上野 登喜生 (福岡大学病院)

川俣 祐貴 (熊本大学病院)

医療情報部会 活動目的

放射線技術学に寄与する医療情報の研究・学術活動の推進

医療情報を利用した研究

- | | |
|-----------|-----------|
| ・診療業務の効率化 | ・DICOM |
| ・医療の質の向上 | ・システム構築 |
| ・情報の二次利用 | ・線量管理システム |
| ・人工知能 | ・データマイニング |

医療情報部会 活動内容

- ・総会学術大会/秋季学術大会でのシンポジウム・教育講演・部会講座の開催
- ・セミナーや勉強会の開催
- ・ガイドライン, JJ1017
- ・学会誌や部会誌, 叢書, 教科書などの発刊
- ・研究・論文支援

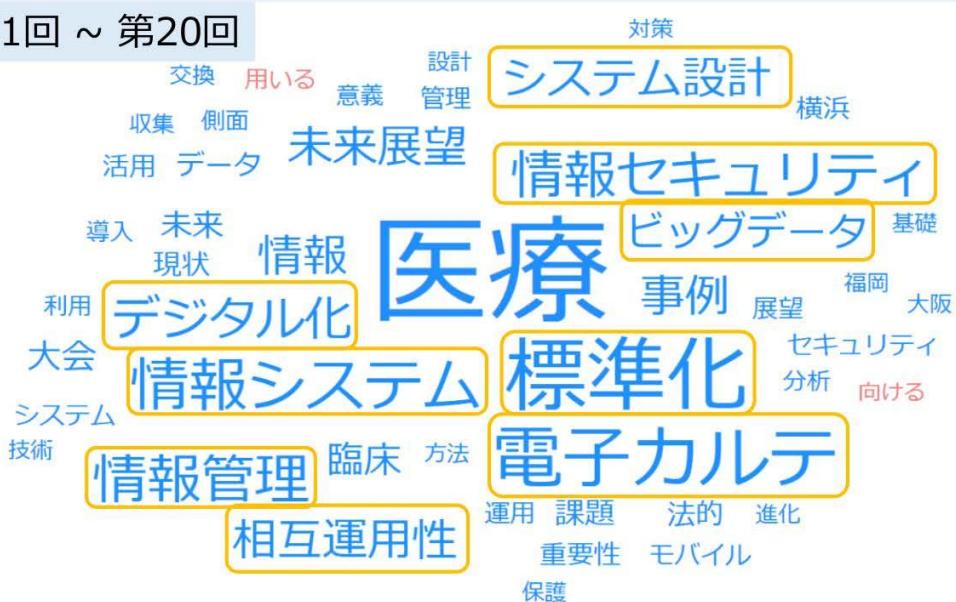


総会学術大会/秋季学術大会

・計43回 医療情報部会を開催 最新トピックスの提供

- 24総会 「医療現場に求められる情報の専門家のるべき姿」
- 23秋季 「紹介用画像の受け渡しに関する課題と将来展望」
- 23総会 「画像を超えた放射線関連医療情報研究の実践」
- 22秋季 「現状におけるセキュリティの考え方」
- 22総会 「線量情報管理に必要な標準データセットについて」
- 21秋季 「放射線領域における標準データセットの必要性と実現に向けた課題」
- 21総会 「AI時代における医療機器・データの品質管理」

第1回～第20回



第21回～第43回



入門講座・専門講座

総会学術大会・秋季学術大会内で開催

24総会入門「DICOMデータを自在に扱うために

～情報連携の仕組みとデータ構造の解説～

24総会専門「放射線部門のサイバーセキュリティ対策の現状と取り組み」

23秋季入門「医療情報研究のネタ探し～現場での研究の組み立て方～」

23秋季専門「データサイエンスの基礎知識～どうする欠損値～」

オンラインセミナー

日本放射線技術学会 RacNe 内の e-learning にて 公開

・動画セミナー

知っておきたい！医療情報に関するトラブル事例とその対応

・学術大会講義

過去の学術大会(総会・秋季)における 入門講座/専門講座のアーカイブ

講演内容のスライド及び実際の講演が視聴可能

PACS スペシャリストセミナー

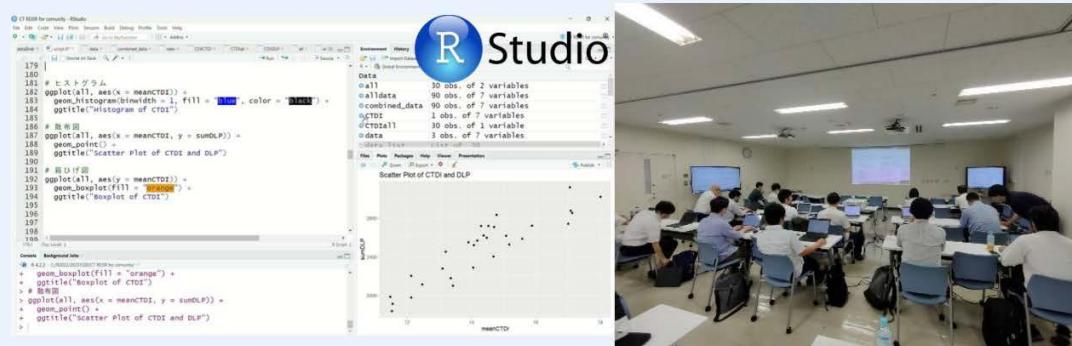
過去の内容

- ・医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 解説
- ・DICOMの中上級編
- ・画像システムの構築と運用
- ・JJ1017コード作成に関する講義と演習
- ・DICOMのトピックス講義
- ・BCP（事業継続計画）に関する講義と演習
- ・～COVIDに負けない情報戦略～
- ・放射線部門のサイバーセキュリティ



今年度の PACSスペシャリストセミナー

「データ分析へのスタートライン～Rでカンタン！データ処理～」 RStudioを用いてRを使用したデータ処理や演習を実施

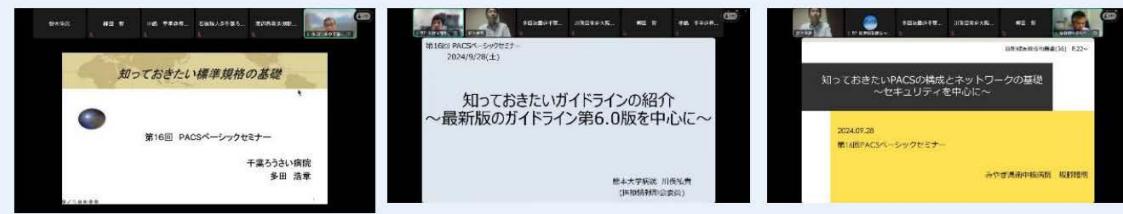


PACS ベーシックセミナー

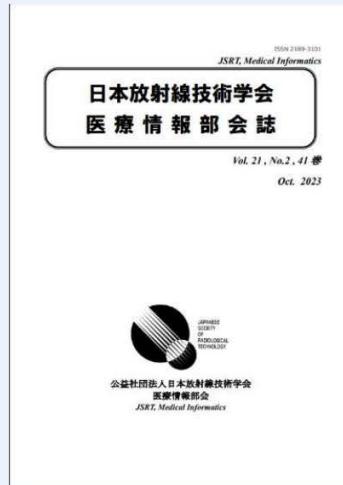
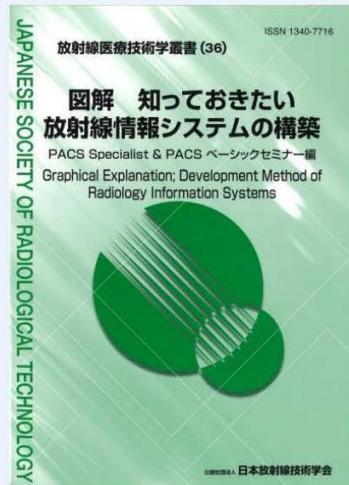
超初級者から中級者までを対象としたセミナー

第16回を2024/9/28(土) 13:00~16:00 Web開催

- ・知りたい標準規格の基礎
 - ・知りたいガイドラインの紹介～最新版のガイドライン第6版を中心に～
 - ・知りたいPACSの構成とネットワークの基礎～セキュリティを中心に～



学会誌や部会誌、叢書、教科書などの発刊



各種ガイドライン

- ・画像情報の確定に関するガイドライン
平成26年8月 第2.1版に改訂
- ・患者紹介等に付随する医用画像についての合意事項
平成28年9月 他学会と連署にて公表
- ・医療被ばくを評価するデータを電子的に記録するためのガイドライン
令和元年1月 第1.1版を公表

JJ1017

HIS, RIS, PACS, モダリティ間予約, 会計, 照射録情報連携 指針 厚生労働省標準規格

J → JAHIS (保健医療福祉情報システム工業会)

J → JIRA (日本画像医療システム工業会)

10 → DICOM supplement10 (MWM : Modality Worklist Management)

17 → DICOM supplement17 (MPPS : Modality Performed Procedure Step)

DICOM規格における「予約情報」および「検査実施情報」の利用手法と併せて
放射線領域において情報連携される手技・行為を表現する
コードとそのマスタを提供する指針

JSRT雑誌 医療情報関連論文 2022年度

- ・線量管理における体幹部X線CTプロトコル再構築 山口雄貴 他.
- ・IVR における放射線科情報システムを活用した線量管理ソフトウェアの開発と有用性の検証 森一也 他.
- ・核医学領域におけるVisual Basic for Applications を用いた線量管理ソフトウェアの開発と実投与量の評価 脇田幸延 他.
- ・経皮的冠動脈形成術における治療区域別被ばく線量とDRLs 2020 の比較 増渕裕介 他.
- ・線量管理システムのソフトウェアバージョンの違いが等価線量、実効線量計算に及ぼす影響 竹井泰孝 他.
- ・PACS の機能実装および画像データの運用管理の多様性
—北海道内の病院を対象としたアンケート調査— 谷川琢海 他.

JSRT雑誌 医療情報関連論文 2023年度

- 放射線治療業務の円滑化に向けて治療RIS端末とスマートフォンを連携したシステムの構築 飯塚崇文 他.
- 表計算ソフトウェアを利用したCT検査における線量管理ツールの開発 佐藤顯広 他.
- DICOM対応プリンタにより紙媒体に出力された単純X線画像の表示性能—LCDモニタとの比較— 木寺大輔 他.
- COVID-19 パンデミックにおけるWeb会議システムを用いた受講者参加型セミナーのアンケート調査 松田大志 他.
- マンモグラフィソフトコピー診断における高輝度モニタの有効性に関する研究 篠原範充 他.
- マンモグラフィ内外斜位撮影の臨床画像評価を対象としたアノテーション付与における評価者間信頼性と人的負荷 谷川原綾子 他.

JSRT雑誌 医療情報関連論文 2024年度

- 東海地区におけるIVRの線量管理に関するアンケート調査 大澤充晴 他.
- 大規模災害を想定した緊急時放射線画像参照ネットワークの構築 若松重良 他.
- 病院放射線部門における災害時停電対策の実態調査 鈴木宏明 他.
- CT 線量管理における線量値算出アプリケーションの開発：プロトコルが Diagnostic Reference Level (DRL) と異なる場合への対応 川俣祐貴 他.

本日の内容

- ・医療情報部会の歴史と概要
- ・活動内容について
- ・他団体との連携、認定資格について
- ・今後について

日本医療情報学会(JAMI)との連携

- ・医療情報学連合大会における 共同企画(シンポジウム)の開催
- ・各種ガイドラインの共同作成
- ・課題研究会「医用画像の交換・連携に関する研究会」
- ・日本医用画像情報専門技師共同認定育成機構を共に構成
→ [医用画像情報専門技師](#)の育成

医療情報技師

日本医療情報学会（JAMI）が認定する専門職の資格

「保健医療福祉専門職の一員として、医療の特質をふまえ、最適な情報処理技術にもとづき医療情報を安全かつ有効に活用・提供することができる知識・技術および資質を有する者」
医療と情報システムの知識の双方を有す「橋渡し役」

Communication Collaboration Coordination 3C

・試験概要

毎年夏 各主要都市で開催 受験資格 無し

3科目すべて合格で取得(医学・医療系 情報処理技術系 医療情報システム系)



出典：<https://www.jami.jp/jadite/new/first/info-f.html>

日本医用画像情報専門技師共同認定育成機構

医用画像情報に関わる高度な専門技術者の
育成および認定を行い 医用画像情報技術を確保するとともに
医用画像情報領域に関する最新の医療情報技術に対応することを目的

構成団体：日本放射線技術学会、日本医療情報学会

協力団体：日本画像医療システム工業会(JIRA)

・医用画像情報専門技師 の資格認定

→年1回 認定試験を開催 5年に1回の更新制度

・育成セミナー、スキルアップセミナーの開催

医用画像情報専門技師

日本医用画像情報専門技師共同認定育成機構 が認定

「医用画像の特性,画像検査,標準規格,法令に関わる専門的知識・技術を有し,
放射線部門ばかりでなく医用画像を扱う領域の情報などの電子化を行うにあたり
現状分析や規格の提案ができ,開発・導入運用の各フェーズにおいてリーダーシップを発揮できる」

医療情報技師 : 全般的な知識と技術を習得 →Generalist

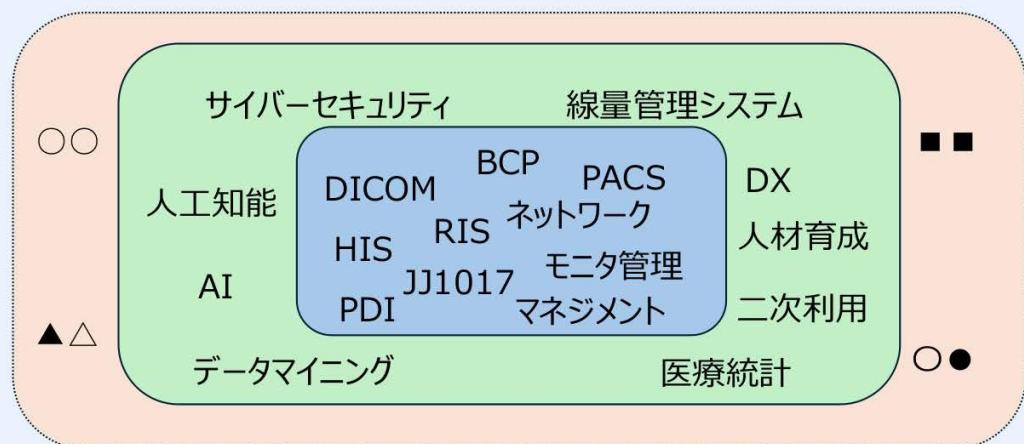
医用画像情報専門技師 : 情報システムに対する具体的な知識と技術,管理を行う→Specialist

試験概要

毎年冬開催 受験資格 医療情報技師を取得していること

記述を中心とした問題 → 例年 合格率 約3-4割

今後の医療情報部会… 医療情報再考



今後の医療情報部会… 医療情報再考

目指すべき人物像… 放射線技術学において

- ・医療情報を駆使した研究活動,教育,交流の実施
- ・先見の明と温故知新

「医療情報の迅速な伝達の実現,指針の研究と普及」

—発足のお知らせ.医療情報分科会誌 Vo1 No.1,Oct.2003

「臨床」と「研究」という「対極」であるものを繋ぐ

—川眞田 実.巻頭言「医療情報部会における「光」と「影」」.
医療情報部会誌 Vol.17 No.2,33巻,Oct.2019

第1回日本放射線医療技術学術大会（沖縄）学術企画 報告
シンポジウム
医用画像領域における医療情報の再考

「日本医用画像管理学会 活動内容」

広島記念病院 加藤 雅士

日本医用画像管理学会は、平成15年（2003年）に開催された全国放射線技師総合学術大会会期中に、平成15年度日本医用画像管理学会総会・学術大会が開催されたのを機に活動を開始しました。

本会は、国内の診療放射線技師に向けて「医用画像情報の管理に関する調査研究および技術開発、ならびにその成果の普及」を目指し、以下の7項目について活動しています。

- 1) 医用画像管理に関する研究・調査・教育
- 2) 国際的学術交流のための研究・調査・合同講演会の開催
- 3) 医用画像情報管理に関する技術開発と普及
- 4) 学術大会、講演会等の開催
- 5) 医用画像管理に関する研究成果等の印刷物の発行
- 6) 医用画像情報管理に係る認定
- 7) その他本学会の目的を達成するために必要な事業

具体的には、年2回の学術大会、年2回のセミナー、年1回のPACS Administratorセミナーを通して、医用画像管理に関する調査や、技術開発の普及、教育に注力し、その時々のトピックス（ガイドライン関連、PDI、モニター管理、災害対応、個人情報保護、PACS管理、HIS・RIS管理、セキュリティー、線量管理、ネットワーク管理、業務拡大、タスクシフト、タスクシェア、医療DX、AI関連、人材教育、研究倫理など）を取り上げ、続けてきました。

その他、当会は発足当初から、韓国の「大韓医療映像情報管理学会」と協定書を締結し、この分野では先進的な韓国の状況についても会員の皆様に情報提供してきました。またアジア諸国では医用画像管理を主とした学術組織や当団体がなく、アジア各国の診療放射線技師職能団体・学術団体が組織する継続教育プラットフォームCPD ASIAの理事より協力要請を受け、2023年度から参画し、韓国だけではなくアジア諸国との情報提供にも注力しています。

日本医用画像管理学会 活動内容

第1回日本放射線医療技術学術大会
JCRTM2024

日本医用画像管理学会 副会長
国家公務員共済組合連合会 広島記念病院 放射線科
加藤雅士

この研究発表の内容に関する利益相反事項は、

ありません

第1回日本放射線医療技術学術大会
2024年10月31日～11月3日

日本医用画像管理学会

The Japanese Society of Medical Image Management

設立：2003年7月23日

2003年（平成15年）11月21日：全国放射線技師学術大会（大阪）

放射線技師会4学会発足

→日本放射線技師会承認学会

・日本放射線カウンセリング学会・日本放射線公衆安全学会・日本消化管画像研究会

・日本医用画像管理学会

第1回総会開催



日本放射線技師会4学会発足対談

日本放射線カウンセリング学会 | 日本放射線公衆安全学会 | 日本消化管画像研究会 | 日本医用画像管理学会

「いつも人と未来の身近に」

私たち診療放射線技師は、間接的ではあるものの国民から選ばれる立場にすることは間違いない。国民の意識の高まりと国の政策によって、将来的にはその傾向がますます強まっていくことは明らかである。このような国民の意識に対応するために、日本放射線技師会4学会が発足。「国民の目から見える職業」を強調に歩み続ける4学会の動きと抱負、具体的な活動内容について、それぞれの学会の代表者の方々に語っていただいた。

—3—



日本医用画像管理学会会長 阿部一之氏

本会の活動内容

1. 医用画像管理に関する研究・調査・教育
2. 国際的学術交流のための研究・調査・合同講演会の開催
3. 医用画像情報管理に関する技術開発と普及
4. 学術大会、講演会等の開催
5. 医用画像管理に関する研究成果等の印刷物の発行
6. 医用画像情報管理に係る認定
7. その他本学会の目的を達成するために必要な事業

具体的な活動内容①

- 1) 学術大会（2回/年）
- 2) 画像管理セミナー（2回/年）
- 3) PACS Administrator Seminar（旧：フィルムレスセミナー）



具体的な活動内容②

医用画像に関する調査・技術開発の普及・教育に注力
その時代のトピックスを余すこと無く捉え情報発信できる
よう心がけている

ガイドライン関連、PDI、モニター管理、災害対応、
個人情報保護、PACS管理、HIS・RIS管理、
セキュリティー、線量管理、ネットワーク管理、業務拡大、
タスクシフト、タスクシェア、医療DX、AI関連、
人材教育、研究倫理

具体的な活動内容③

大韓医療映像情報管理学会：大韓民国 と協定書を締結
(KMIIA : Korean Society of Medical Image
Information Administrator Association)

先進的IT国家の韓国の状況について、会員への情報提供を
実施

具体的な活動内容④

CPD ASIA：継続教育プラットフォーム
(Continuing Professional Development Asia)

アジア諸国では医用画像管理を主とした学術組織や団体がなく、アジア各国の診療放射線技師職能団体・学術団体が組織する継続教育プラットフォームCPD ASIAの理事より協力要請を受け、2023年度から参画し、韓国だけではなくアジア諸国への情報提供にも注力している。

→こちらについては、後ほど本学会：国際交流理事より報告

アンケート調査①

医用画像情報管理士（現：医療情報精度管理士）に関する委託研究

【医用画像運用におけるアンケート調査】2005年

【内容】：医用画像管理システム導入施設を対象とし、画像配信、画像管理、保存、システム運用管理規定について

【アンケート集計】：1338件（回収率39%）

【結果】：医用画像管理において、業務評価基準・運用管理規定の標準化・医用画像管理士としての業務指針の標準化が必要

日本医用画像管理学会会誌Vol.03より

アンケート調査②

可搬媒体を利用した地域医療情報連携の実態調査 2012年

【目的】：電子可搬媒体に記録される画像情報の整合性確保

診療放射線技師の日常業務との関連

【アンケート集計】：452名（383施設）

【結果】：可搬媒体作成・取り込み業務は放射線部で実施。本業に影響を与えている。検査日を可搬媒体取り込み日に変更する施設がある。そのデータを再出力・他施設へ拡散する可能性が高く早急な対策が必要である。

日本医用画像管理学会会誌Vol.10.13より

アンケート調査③

医療機関線量管理の実態調査 2019年

【目的】：日韓両国医療機関の放射線線量管理の実態調査

線量管理の現状及び問題点を明らかにし対策を検討する

【アンケート集計】：62名

【結果】：撮影プロトコルの検討（統一化・標準化）が必要。線量の単位・考え方を標準化する必要がある。施設内での取り組みを明確化し、コストバランスを考えて線量管理ソフトを導入するのかどうかを検討する必要がある。

日本医用画像管理学会会誌Vol.17より

アンケート調査④

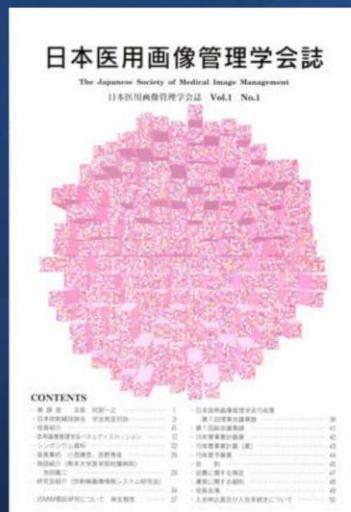
医療AI利活用の現状に関するwebアンケート 2024年

【目的】：今後の放射線医学分において、医療AI利活用状況を把握し、
さらに促進するための課題を把握する

【アンケート集計】：2024年09月30日で締め切り、現在集計中

【結果】：後日報告予定

本会会誌



本会会誌

2004年～2024年（1回/年）
1号～16号（紙媒体）17号より電子媒体（PDF）にて提供

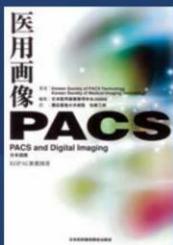


本会発行書籍

2005年発刊



2006年発刊



2007年発刊



2010年発刊



2011年発刊



2015年発刊



最後に

- 背景：医療AI、DX、タスクシフトで診療放射線技師の業務拡大
- セキュリティー対策、線量管理、医療安全、災害対策、人材育成が重要
- 学会や学術大会はハイブリッド開催
- 国際交流を強化、CPD Asiaに参加
- 2024年では本会AI活用状況のアンケート調査予定
- 情報発信と会員の困りごと解決に注力

日本医用画像管理学会会誌Vol.21 会長巻頭言より

第1回日本放射線医療技術学術大会（沖縄）学術企画 報告
シンポジウム
医用画像領域における医療情報の再考

「日本医用画像管理学会 国際交流事業」

株式会社フィリップスジャパン 秋田 裕介

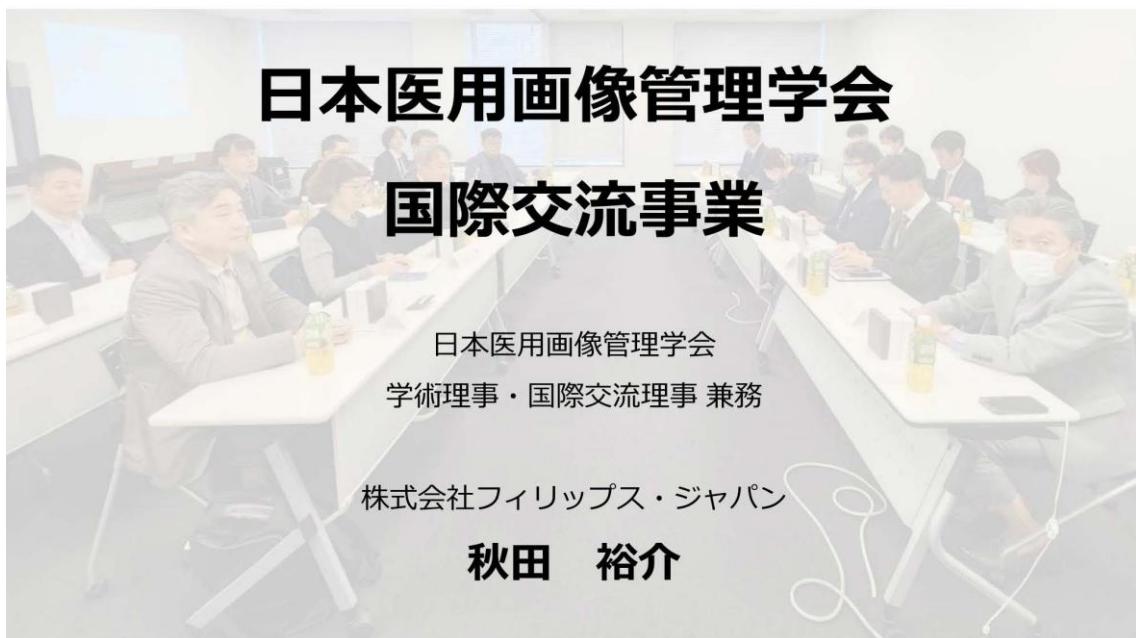
日本医用画像管理学会(JSMIM)の国際交流事業は、医用画像情報管理の分野における国際的な学術情報共有と国際交流の促進を目的としています。

今回のプレゼンテーションでは、その事業概要や活動実績を中心に、医用画像管理領域で国際交流を継続する意義についても共有させていただきます。

当会は発足当初から、韓国の大韓医療映像情報管理学会(KMIIA)と協定書を締結し、日韓合同セミナーの開催や相互の学術大会への発表参加を継続しております。訪韓時は先進的な医療機関の施設見学会を企画するなど、実践的な国際交流の機会を提供してきました。

また2023年度からは、アジア各国の診療放射線技師職能団体・学術団体が組織するWebを活用した生涯教育プログラム(CPD Asia)から協力要請を受け、日本診療放射線技師会の委託事業として日本国内の医用画像管理の実情に関するアンケート結果を報告するなど、各国との最新動向や課題共有の場となっています。

最初こそ言語の違いに高いハードルを感じるかも知れませんが、当会では担当者が言語・学術ともにサポートしながら、皆様の活躍の一助となるようサポートします。また国際交流事業の継続は、会員に研究発表や語学力向上の場を提供するだけでなく、医用画像管理の革新的アイデアが得られることにも大きな意義がございます。当日はぜひ皆様とともに、グローバルな視点で医用画像管理に関する議論が出来れば幸いです。



Agenda

- 事業背景とあゆみ
- 国際交流事業活動の紹介
- 日本およびJSMIM会員のBenefit

Agenda

● 事業背景とあゆみ

● 国際交流事業活動の紹介

● 日本およびJSMIM会員のBenefit

事業背景とあゆみ

日本医用画像管理学会 会則（目的）

- 1) 診療放射線技師と医用画像情報管理に関する研究者との共同研究
- 2) 我が国における医用画像情報管理に関する技術的体系の確立
- 3) 國際的學術交流のためにアジア近隣諸国との共同調査・研究、合同講演会の開催を通じて国際交流への貢献
- 4) 教育・研修による医用画像情報管理に係る認定制度の確立
- 5) 医用画像情報管理に関する学術的研鑽と実践的活動を行うことにより、保健・医療・福祉において広く国民の要望に応えるために医用画像情報管理の向上に寄与



平成15年（2003年）7月23日
設立趣意書

資料提供；阿部一之 先生
日本医用画像管理学会 初代会長



平成15年度日本医用画像管理学会設立総会・学術大会
大阪国際会議場 2003年11月21日



資料提供；阿部一之 先生
日本医用画像管理学会 初代会長



2004年11月5日
第20回放射線技師総合学術大会
IT先進国に学ぶべきことと医用画像情報管理士の期待



2005年4月



2005年10月30日
第1回
日本韓国共同認定試験

資料提供；阿部一之 先生
日本医用画像管理学会 初代会長



資料提供；阿部一之先生
日本医用画像管理学会 初代会長

第1回日韓学術交流大会 2004年9月11日
韓国 慶州教育文化会館

Expanding Roles of the Radiological Technologists

in the Medical Imaging Information Systems



Kazuyuki Abe

Saga Medical School Hospital
Department of Radiology



資料提供；阿部一之先生
日本医用画像管理学会 初代会長

▶ **国際交流**


KMIIA
 The Korea Medical Image Information Administrator Association


JSMIM
 The Japanese Society of Medical Image Management

韓国医療映像管理学会(KMIIA)と日本医療画像管理学会(JSMIM)は、学術大会での合同セッションをはじめとする交流を行っています。

▶ **相互交流協定調印式**








資料提供；阿部一之 先生
日本医用画像管理学会 初代会長





ソウル大学病院江南センター見学, 54th KRTA Conference 2019.10

資料提供; 池田龍二先生
日本医用画像管理学会第4代会長

Agenda

- 事業背景とあゆみ
- 国際交流事業活動の紹介
- 日本およびJSMIM会員のBenefit

国際交流事業 | 大韓医療映像情報管理学会 (KMIIAA)

事業概要

学術交流を通した医用画像管理領域の情報交換および共同研究事業の企画立案・実行

両団体開催の学術大会への参加および会員発表・講演（年1回ずつ）*過去プログラムは会員Webで一部公開

日本・韓国における双方の医療施設見学

協業団体

大韓医療映像情報管理学会 (KMIIAA)

事業開始

2004年 -

JSMIM会員への貢献

- Webおよび会報誌での情報提供
- 年1回の訪韓での一般演題発表の機会提供
(JSMIMの渡航費用助成制度あり、表彰制度あり)
- 年1回の訪韓での病院見学の機会提供

国際交流事業 | 大韓医療映像情報管理学会 (KMIIAA)



役員および会員が訪韓し、現地学会での発表（毎年2~3名、計40名以上）を継続

国際交流事業 | 大韓医療映像情報管理学会 (KMIIAA)



国際交流事業 | CPD Asia Program

経緯

2022年開催のISRRTにて、アジア各国の診療放射線技師会が協同実施している生涯教育連携オンライン・セミナー（Online Webinar CPD ASIA）より協力要請を受けた。日本国内での協議を重ねた結果、日本診療放射線技師会の外部委託事業として日本医用画像管理学会が受託し、本会事業として継続実施する運びとなった。

協業団体

online Continuing Professional Development Program for Asian RT's societies
(CPD Asia Program)

事業開始

2023年 -

国際交流事業 | CPD Asia Program



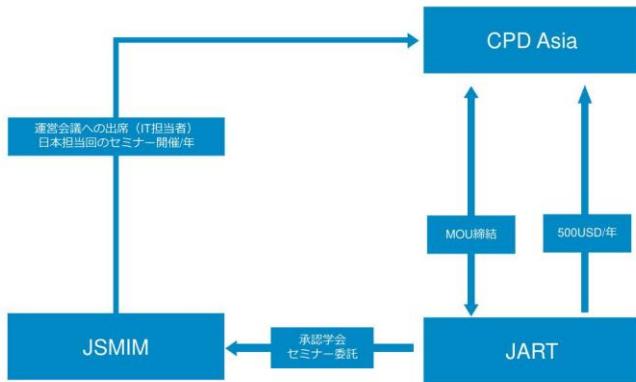
Memorandum of Understanding

Assuring
Indonesian Society of Radiographers (ISRI),
Macau Radiological Technologists Association (MRTA),
Myanmar Society of Medical Radiation Technologists (MSMRT),
Philippine Association of Radiological Technologists (PART),
Vietnam Association of Radiological Technologists (VART),
American Society of Radiologic Technologists (ASRT),
Hong Kong Radiographers' Association (HKRA),
Taiwan Association of Medical Radiation Technologists (TAMRT),
Malaysian Society of Radiographers (MSR),
Indian Society of Radiographers (ISR),
Pakistan Association of Radiologic Technologists (PART),
Japan Association of Radiologic Technologists (JART).

For Application To:
Online Continuing Professional Development (CPD) Platform for Asian Radiological Technologists' Societies

- Preface**
 - Given the rapid advancement of medical radiation technology and the varying needs of health care systems, continuing professional development is necessary to ensure that we will continue to provide quality and professional care to the patients.
- Aim**
 - To strengthen cooperation and exchange between radiological technologists' organizations from Asian countries and regions.
 - To promote continuing professional development and improve the professional level of medical radiation technology in Asian countries and regions that have joined this agreement.
 - To share academic training resources and improve the quality of the continuing professional development of radiological technology.
- Participants**
 - The Online Continuing Professional Development (CPD) Platform for Asian Radiological Technologists' Societies, organized by Indonesian Society of Radiographers, Macau Radiological Technologists Association, Myanmar Society of Medical Radiation Technologists, Philippine Association of Radiologic Technologists, and Vietnam Association of Radiological Technologists.

Memorandum of Understanding
Page 1/3



国際交流事業 | CPD Asia Program



2024 CPD Asia Seminar hosted by Japan ; December 14th 2024. (詳細はWebで報告)

Agenda

- 事業背景とあゆみ
- 国際交流事業活動の紹介
- **日本およびJSMIM会員のBenefit**

**医用画像領域の
国際交流に意義
はあるのか？**

井鼃不可以語於海者、
拘於虛也。



アジア諸国への発信と情報交換



第1回日本放射線医療技術学術大会（沖縄）学術企画 報告
シンポジウム
医用画像領域における医療情報の再考

「医療画像情報精度管理士分科会活動の今までとこれからの展望」

白河厚生総合病院 石森 光一

医療画像情報精度管理士分科会は、すべての医療機関に JART が認定する医療画像情報精度管理士が従事し医療画像情報の管理に携わることを目標に、セミナーの開催やアンケート調査を実施し JART 会員及びメーカーへの情報提供活動を行っています。

2005 年頃から PACS の普及に伴い、システム導入に伴う機器との接続や可搬型媒体による画像連携、現在では自然災害対策やサイバーセキュリティ対策など医療機関毎に多くの課題を抱えている状態です。この様な中で標準規格の採用や関連ガイドラインに準じた運用の構築まで、多くの知識を持ちそれを活かす診療放射線技師が必要とされています。

過去のセミナーはこの様な背景を踏まえた内容で開催され、関連ガイドラインの解釈から現場での問題点・解決策などをユーザーおよびメーカーそれぞれの視点で情報提供を行ってきました。

今回の合同企画では、医療画像情報精度管理士分科会が令和 3(2021)年度に実施した「線量記録・線量管理体制の現状把握調査報告」を中心に、分科会活動の今までとこれからの展望を報告します。

学術企画⑥(日本医用画像管理学会, JART医療画像情報精度管理士分科会, JSRT医療情報部会)
医用画像領域における医療情報再考

医療画像情報精度管理士分科会活動の今までとこれからの展望

○石森 光一 池田 龍二 上杉 正人 小西 康彦
竹内 和宏 永井 優一 原瀬 正敏 坂本 博

概要

- 1 分科会の紹介と今までの活動内容
- 2 活動内容の一例紹介
令和3(2021)年度実施アンケート調査
線量記録・線量管理体制の現状把握調査報告
- 3 分科会活動これからの展望

概要

1 分科会の紹介と今までの活動内容

2 活動内容の一例紹介

令和3(2021)年度実施アンケート調査
線量記録・線量管理体制の現状把握調査報告

3 分科会活動これからの展望

2

日本診療放射線技師会の分科会

診療放射線学及び診療放射線技術の向上発展に関する事業、診療放射線学に関する研究と啓発に関する事業、放射線診療の安全確保に関わる事業、診療放射線技師の生涯教育に関する事業、その他本会の目的達成に必要な事業を遂行するため、各専門領域別に「分科会」を立ち上げ活動を行っています。

- ◆ 放射線機器管理士分科会
- ◆ 放射線管理士分科会
- ◆ 放射線治療分科会
- ◆ 消化管画像分科会
- ◆ **医療画像情報精度管理士分科会**
- ◆ オートプシー・イメージング分科会
- ◆ 臨床実習指導教員分科会
- ◆ 骨関節撮影分科会
- ◆ 画像等手術支援分科会
- ◆ 放射線被ばく相談員分科会
- ◆ 災害支援認定診療放射線技師分科会

※JARTホームページより引用

3

日本診療放射線技師会の分科会活動内容

- (1) 各認定資格における教育, 認定, 更新, 広報, 啓発に係る活動
- (2) 各専門診療放射線技師における教育, 認定, 更新, 広報, 啓発に係る活動
- (3) 診療放射線技師に益する施策等を目的とした調査活動
- (4) すべての診療放射線技師を対象とした専門領域の資質向上を目的とした講習会の開催
- (5) 学術事業等を通じ関連組織および団体等との連携
- (6) 分科会の目的達成および永続的な成長を図るため次世代を担う人材育成

※JARTホームページより引用

4

医療画像情報精度管理士分科会とは

すべての医療機関にJARTが認定する医療画像情報精度管理士が従事し医療画像情報の管理に携わることを目標に, セミナーの開催やアンケート調査を実施し, 臨床で活躍するJART会員への情報提供活動を行っています.

現場で求められる診療放射線技師(医療画像情報精度管理士)

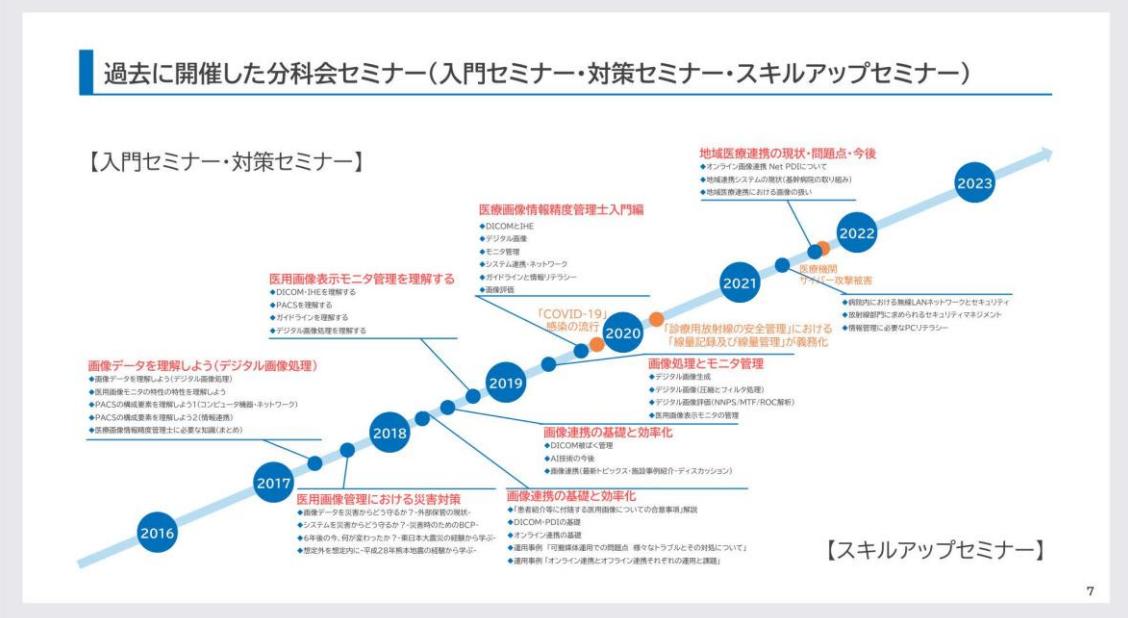
医用画像情報管理士 ▶ 医療画像情報精度管理士
(2005年誕生) (2012年画像評価分野の知識・画質管理を付加)

標準規格の採用や関連ガイドラインに準じた運用の構築まで, 多くの知識を持ちそれを活かす診療放射線技師が現場で必要とされています.

5



6



7



令和3(2021)年度実施アンケート調査 線量記録・線量管理体制の現状把握調査報告

目的

2020年4月1日から「診療用放射線の安全管理」における「線量記録及び線量管理」が義務化された。一方で、線量管理システムの導入は必須ではないことにくわえ、古い検査装置のため線量情報が出力できないなど、運用やコストの関係から施設ごとに多様な管理体制となっている。

当分科会では、これらの現状を把握するため、線量データの取得方法(RDSR等)・記録様式(線量管理システム等)の利用状況についてアンケート調査を実施した。

10

アンケート内容と実施期間

▶ 内容

1. 貴施設について
2. 線量の記録について
3. 設置されている機器について
4. 線量の管理について(記録の活用)
5. その他

▶ 実施期間

2021.05.01～2021.06.30

11

アンケート質問項目

1. 貴施設に関して

- 1-1)施設名と今回の調査にご協力いただいた方の技師会会員番号と氏名をご記入ください
1-2)2020年4月に施行された医療法施行規則「診療用放射線に係る安全管理体制」において、貴施設は「診療用放射線の安全利用のための指針」を策定していますか?
1-3)貴施設は「診療用放射線の安全利用のための指針策定に関するガイドライン」で示された「線量管理及び線量記録の対象となる放射線診療機器等」を設置していますか?
1-4)貴施設は「対象となる放射線診療機器等」で示された検査機器について線量記録は行っていますか?

※お答え頂く「線量記録」とは「その検査を受けた患者さんの被ばく線量の数値を記録する事」を指し、撮影条件等を記録する照射録ではありません。

2. 線量の記録に関して

- 2-1)線量記録に利用している情報、記録システムは何を使用していますか?(※複数選択可)
2-2)線量記録に利用している情報において「その他」を選択された方は、具体的にどのように行われていますか?
2-3)紙媒体には、どのような情報を記録していますか?

3. 設置されている機器に関して

- 3-1)「1-3」に該当する機器で、「貴施設に設置されている機器」および「どこに記録しているか」(※複数選択可)
3-2)「3-1」で答えた機器の中で「RDSR(RRDSR)」出力ができるものをお選びください(※複数選択可)
3-3)ガイドラインでは「なお、これらの医療機器等以外の放射線診療機器(以下 その他機器)についても、必要に応じて線量管理及び線量記録の対象とすることが望ましい。」と記載されています、「貴施設に設置されているその他機器」および「どこに記録しているか」をお選びください(※複数選択可)

- 3-4)「3-3」で答えた機器の中で「RDSR」出力ができるものをお選びください(※複数選択可)

4. 線量の管理に関して(記録の活用)

- 4-1)線量記録をどのように活用していますか?もしくは活用する予定ですか?(※複数選択可)
4-2)「4-1」の「その他」に関して差し支えない範囲で具体的にお答えください

5. その他

- 5-1)線量管理及び線量記録に関してご意見等ありましたらご記入ください

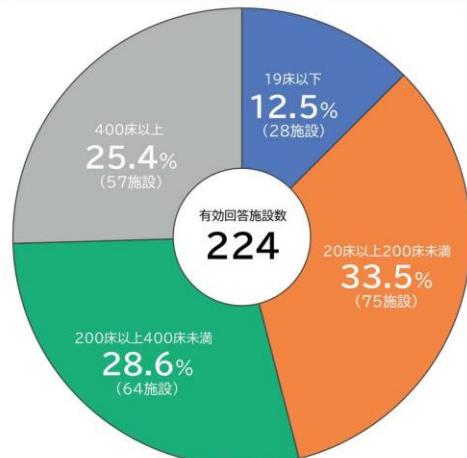
12

日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

有効回答施設数と都道府県別回答状況

北海道・東北		南関東		近畿		四国	
北海道	9	埼玉	5	滋賀	2	徳島	0
青森	6	千葉	5	東京	4	香川	4
岩手	0	東京	13	大阪	15	愛媛	3
宮城	4	神奈川	3	兵庫	4	高知	0
秋田	3			奈良	4		
山形	6			和歌山	1		
福島	6						
北関東・甲信		北陸		九州・沖縄		有効回答施設数 224	
茨城	1	新潟	3	福岡	7	224	
栃木	5	富山	3	佐賀	2		
群馬	4	石川	9	長崎	2		
山梨	1	福井	2	熊本	6		
長野	6			大分	6		
				宮崎	2		
				鹿児島	12		
				沖縄	3		

病床数区分による有効回答施設の内訳



13

日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

1. 貴施設に関して

- 1-2) 2020年4月に施行された医療法施行規則「診療用放射線に係る安全管理体制」において、貴施設は「診療用放射線の安全利用のための指針」を策定していますか？
 1-3) 貴施設は「診療用放射線の安全利用のための指針策定に関するガイドライン」で示された「線量管理及び線量記録の対象となる放射線診療機器等」を設置していますか？
 1-4) 貴施設は「対象となる放射線診療機器等」で示された検査機器について線量記録を行っていますか？
 ※お答え頂く「線量記録」とは「その検査を受けた患者さんの被ばく線量の数値を記録する事」を指し、撮影条件等を記録する照射録ではありません。

指針の策定と線量管理・記録の状況

線量管理及び線量記録の対象となる 告示された放射線診療機器等		指針の策定		線量管理・記録	
設置している	209	策定している	203	行っている	191
				行っていない	12
設置していない	15	策定している	6	行っている	5
				行っていない	1
		策定していない	9	行っている	4
				行っていない	5

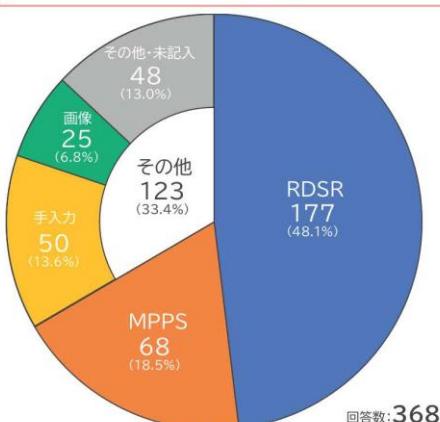
14

日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

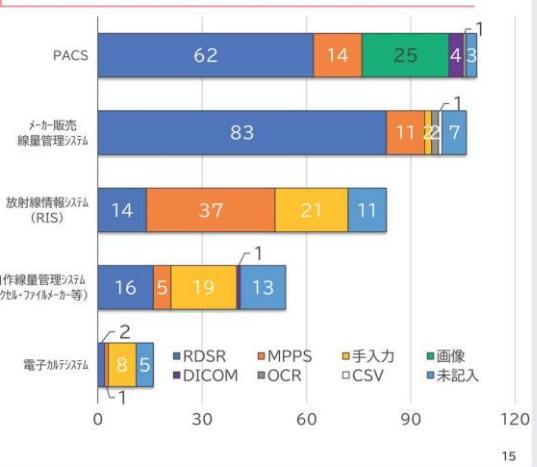
2. 線量の記録に関して

- 2-1) 線量記録に利用している情報、記録システムは何を使用していますか？（※複数選択可）

線量データ取得方法の割合（※複数選択回答）



記録媒体毎の記録の内訳（※複数選択回答）



15

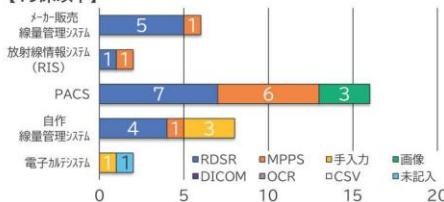
日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

2. 線量の記録に関して

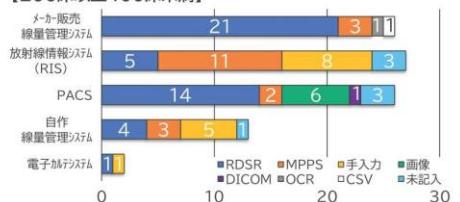
2-1) 線量記録に利用している情報、記録システムは何を使用していますか？（※複数選択可）

病床数区分別の記録媒体の内訳

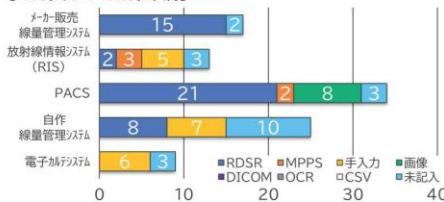
【19床以下】



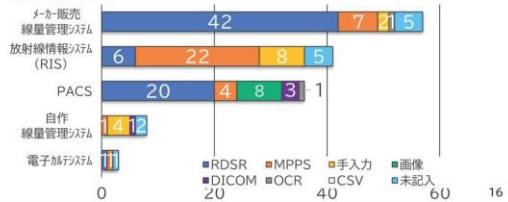
【200床以上400床未満】



【20床以上200床未満】



【400床以上】

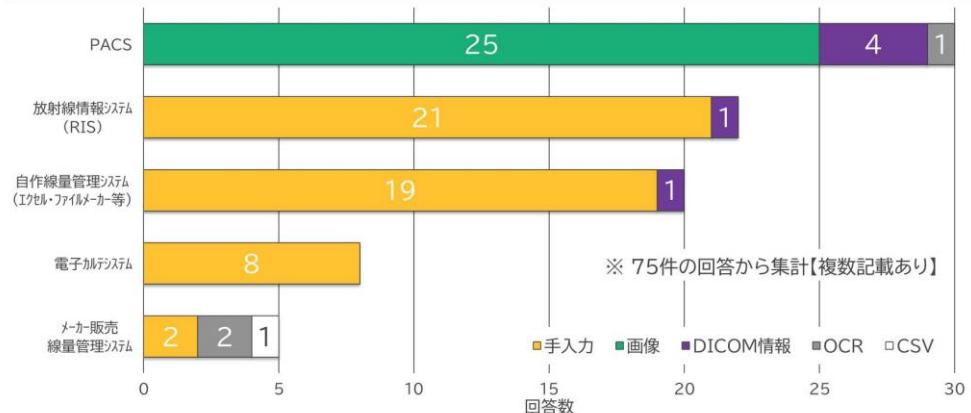


日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

2. 線量の記録に関して

2-2) 線量記録に利用している情報において「その他」を選択された方は、具体的にどのように行われていますか？

線量データ取得方法における「その他」の具体的な内容



17

日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

2. 線量の記録に関して

2-3) 紙媒体には、どのような情報を記録していますか?

紙媒体における記録内容

	19床以下	20床以上200床未満	200床以上400床未満	400床以上
全身用X線CT診断装置	CTDIvol・DLP 撮影条件	CTDIvol・DLP 撮影条件	CTDIvol・DLP 撮影条件	CTDIvol・DLP
診療用放射性同位元素	-	実投与量・実効線量	実投与量	実投与量
循環器用 X線透視診断装置	-	面積線量・最大入射皮膚線量 総線量・部位 造影剤使用量(注入レートなど) 透視時間	線量記録 透視時間 最大皮膚線量部位	空気カーマ 透視時間 面積線量
一般X線撮影装置	撮影条件	NDD法による表面入射線量	-	-
X線TV装置 (※循環器対応ではない装置)	被ばく線量	透視線量・総線量	-	面積線量・総線量

※ 42件の回答: 記録している単語の抽出

18

日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

3. 設置されている機器に関して

3-1) 「1-3」に該当する機器で、「貴施設に設置されている機器」および「どこに記録しているか」(※複数選択可)

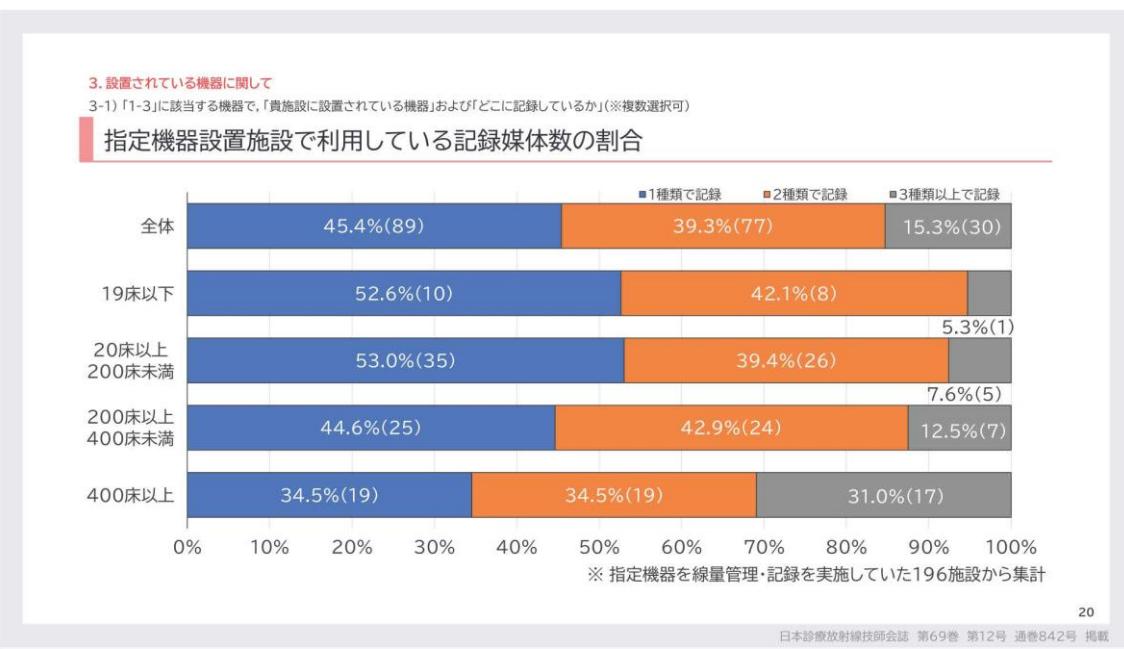
設置されている指定機器と記録媒体の組合せ数

記録媒体 指定機器	メーカー販売 線量管理システム	PACS	放射線情報 システム(RIS)	自作線量管理 システム	電子カルテシステム	紙	合計
全身用X線CT診断装置	81	102	42	36	12	14	287
据置型デジタル式 循環器用X線透視診断装置	48	39	30	12	4	4	137
診療用放射性同位元素	30	4	39	16	5	8	102
X線CT組合せ型SPECT装置	20	17	14	3	0	1	55
X線CT組合せ型 ポジトロンCT装置	22	17	9	3	1	0	52
陽電子断層撮影診療用 放射性同位元素	13	4	12	2	0	1	32
X線CT組合せ型 循環器用X線透視診断装置	12	9	4	2	0	1	28
移動型デジタル式 循環器用X線透視診断装置	9	5	6	1	2	0	23
据置型アナログ式 循環器用X線透視診断装置	4	1	4	1	0	0	10
移動型アナログ式 循環器用X線透視診断装置	1	1	5	1	1	0	9

※同一機器にて複数選択回答有り

19

日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載



20

日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

3. 設置されている機器に関して
3-2) 「3-1」で答えた機器の中で「RDSR(RRDSR)」出力ができるものを選んでください(※複数選択可)

■ 指定機器でRDSR(RRDSR)出力ができる施設

	全体の割合	19床以下	20床以上 200床未満	200床以上 400床未満	400床以上
全身用X線CT診断装置	144/196 (73.5%)	12/20	45/67	37/55	50/54
搬置型デジタル式 循環器用X線透視診断装置	72/ 99 (72.7%)	1/ 1	10/13	30/39	31/46
X線CT組合せ型SPECT装置	22/ 37 (59.5%)	0/ 0	0/ 2	7/10	15/25
X線CT組合せ型ポジトロン装置	21/ 31 (67.7%)	1/ 2	0/ 1	2/ 2	18/26
X線CT組合せ型循環器用 X線透視診断装置	15/ 20 (75.0%)	0/ 0	0/ 0	2/ 2	13/18
移動型デジタル式 循環器用X線透視診断装置	12/ 20 (60.0%)	0/ 0	2/ 3	4/ 6	6/11
搬置型アナログ式 循環器用X線透視診断装置	2/ 10 (0.2%)	0/ 0	0/ 2	1/ 1	1/ 7
移動型アナログ式 循環器用X線透視診断装置	0/ 8 (0.0%)	0/ 0	0/ 2	0/ 1	0/ 5
陽電子断層撮影診療用 放射性同位元素	0/ 23 (0.0%)	0/ 2	0/ 1	0/ 0	0/20
診療用放射性同位元素	0/ 80 (0.0%)	0/ 1	0/ 8	0/21	0/50

※ RDSR(RRDSR)出力可能施設数 / 指定機器設置施設数

21

日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

3. 設置されている機器に関して

3-3) ガイドラインでは「なお、これらの医療機器等以外の放射線診療機器(以下 その他機器)についても、必要に応じて線量管理及び線量記録の対象とすることが望ましい。」と記載されています。「貴施設に設置されているその他機器」および「どこに記録しているか」をお選びください(※複数選択可)

設置されている指定外機器と記録媒体の組合せ数

記録媒体 指定外機器	放射線情報システム (RIS)	PACS	メーカー販売 線量管理システム	紙	電子カルテシステム	自作 線量管理システム	合計
一般X線撮影装置	48	18	24	17	12	6	125
X線TV装置 ※循環器対応ではない装置	43	26	26	20	11	8	134
乳房X線撮影装置	38	34	21	3	8	3	107
回診用X線撮影装置	43	14	13	15	12	4	101
X線骨密度測定装置	31	8	7	8	8	2	64
パノラマX線撮影装置	23	3	5	6	1	1	39
デンタルX線撮影装置	17	6	3	6	1	1	34
体外衝撃波結石破碎装置	3	11	0	4	2	0	20

※同一機器にて複数選択回答有り

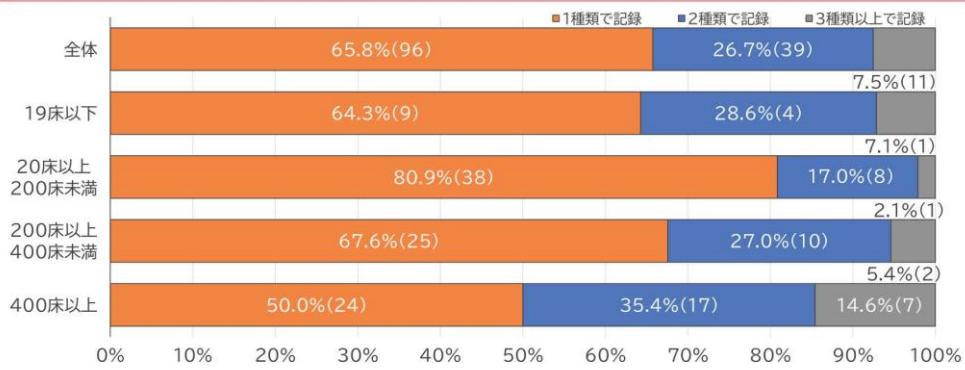
22

日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

3. 設置されている機器に関して

3-3) ガイドラインでは「なお、これらの医療機器等以外の放射線診療機器(以下 その他機器)についても、必要に応じて線量管理及び線量記録の対象とすることが望ましい。」と記載されています。「貴施設に設置されているその他機器」および「どこに記録しているか」をお選びください(※複数選択可)

指定外機器設置施設で利用している記録媒体数の割合



※ 指定外機器を線量管理・記録を実施していた146施設から集計

23

日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

3. 設置されている機器に関して

3-4)「3-3」で答えた機器の中で「RDSR」出力ができるものを選びください(※複数選択可)

指定外機器でRDSR出力ができる施設

	全体の割合	19床以下	20床以上 200床未満	200床以上 400床未満	400床以上
X線TV装置 ※循環器対応ではない装置	43/110 (39.1%)	3/ 9	10/32	9/27	21/42
乳房X線撮影装置	30/ 90 (33.3%)	4/ 7	6/22	6/24	14/37
一般X線撮影装置	26/107 (24.3%)	1/10	9/34	6/25	10/38
回診用X線撮影装置	12/ 86 (14.0%)	0/ 1	4/32	3/20	5/33
X線骨密度測定装置	3/ 55 (5.5%)	0/ 2	0/14	2/13	1/26
パノラマX線撮影装置	1/ 35 (2.9%)	0/ 0	0/ 4	1/ 8	0/23
デンタルX線撮影装置	1/ 30 (3.3%)	0/ 0	0/ 5	1/ 7	0/18
体外衝撃波結石破碎装置	0/ 20 (0.0%)	0/ 1	0/ 2	0/ 5	0/12

※ RDSR出力可能施設数 / 指定外装置設置施設数

24

日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

4. 線量の管理に関して(記録の活用)

4-1)線量記録をどの様に活用していますか？もしくは活用する予定ですか？(※複数選択可)

線量の管理に関して(記録の活用)



25

日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

4. 線量の管理に関して(記録の活用)

4-2)「4-1」の「その他」に関して差し支えない範囲で具体的にお答えください

自由記載内容のまとめ

要望	金銭面	診療報酬
		線量管理システム(ソフト)の購入・配布
	管理・記録	医療被ばくの一元管理
		統一した作業マニュアル
		管理指針(管理内容の不明さを無くす)
		研修会の参加(医師)
不安	装置	旧装置のバージョンアップ
		旧装置からのデータの出力(CSVやエクセルデータなど)
不安	画質	被ばく線量低下に伴う画質の犠牲
	管理・記録	業務量の増加

※記載文章内の語句から分類

26

日本診療放射線技師会誌 第69巻 第12号 通巻842号 掲載

概要

① 分科会の紹介と今までの活動内容

② 活動内容の一例紹介

令和3(2021)年度実施アンケート調査
線量記録・線量管理体制の現状把握調査報告

③ 分科会活動これからの展望

28

医療画像情報精度管理士分科会活動これからの展望

▶ 現場に求める人物像

診療放射線技師が携わる医療機器の接続・運用などに関する問題を診療放射線技師が解決する

- 【現場】 ✓ 同じモダリティの装置でもメーカー毎にDICOMの解釈などが異なる
- ✓ ガイドラインの解釈・施設毎の状況を踏まえた運用構築など

- 【分科会】 ✓ 入門セミナー・スキルアップセミナー・学術大会分科会企画
- ✓ 他団体と比べ母数が多い(回答施設の病床数に幅がある)アンケートによる実態調査
- ✓ JART会誌・ホームページによる情報の提供

▶ 今後の人材育成(後身の育成を含む)

【現場】 設置・接続・運用に若い人達を任命し、経験してもらう

- ✓ システム接続・運用構築(改善)・日々のトラブル対応などから興味を持ってもらう工夫

【分科会】 JARTの生涯教育にこの分野の人材育成を組み込む

- ✓ 機種選定・設置・各種システムとの接続・日常点検・廃棄
- ✓ 各分野に対するシステム・画像情報の利活用
- ✓ 受験前のe-ラーニングから資格取得・更新による医療画像情報精度管理士認定資格取得者数の増加

医療情報部会活動報告

第36回 PACS Specialist セミナー

開催報告

業務システムや IoT デバイスの普及により、放射線分野では PACS や RIS 等の導入により業務の効率化が図られましたが、蓄積されたデータ（情報資産）の利活用が十分に進んでいないという課題も挙げられています。今後の放射線分野において、医療現場の安全性の担保と医療の質の向上という社会的要請に応えるためには、蓄積されたデータの利活用が重要であると考えます。

この様な背景の中、医療情報部会ではデータ分析の理解を深めていただく機会として、プログラミング言語” R ”の統合開発環境である RStudio を用いたセミナーを開催しました。今回は座学とハンズオン演習の2部構成とし、座学では、データ整形と集計の基礎やデータの可視化、 R を用いる利点について詳しく紹介いたしました。ハンズオン演習では、実際に R を操作しながらデータの整形、サマリ作成、統計分析、結果の可視化を行うことで、実践できるようになる、あるいは実践のイメージをとらえていただくことを目指しました。医療データを用いた研究に取り組みたい方から医療情報管理に携わる方まで、広く、多くのご参加をいただきました。今回は東北支部と医療情報部会の共催で開催しました。九州支部の川田支部長はじめ関係の皆さま、また、セミナー開催にご協力いただいた福岡大学病院の皆様に厚く御礼申し上げます。

日時 2025年2月1日（土） 13:00～17:30

会場 福岡大学病院（旧本館1F） ガンセンターミーティング室
* WebEx によるハイブリッド

受講者数 現地参加 9名 Web 参加 29名（医療情報技師 12名 医用画像情報専門技師 3名）

参加費 会員 3,000円 非会員 7,000円

参加資格 基本的な PC スキルをお持ちの方でセミナー当日に PC を持参できる方

更新ポイント 医療情報技師育成ポイント：3点 医用画像情報専門技師ポイント：15点

【プログラム】

13:05～13:35 データの整形、集計、記述要約 13:40～14:10 データ可視化のエッセンス

14:15～14:45 R で出来るこんなコト

14:50～15:00 R の説明・動作確認

15:00～15:50 R でデータ整形・サマリ作成

16:00～16:50 R で統計分析・可視化①

17:00～17:25 R で統計分析・可視化②

17:25～17:30 閉会挨拶

後援：一般社団法人 日本医療情報学会、一般社団法人 日本医用画像情報専門技師共同認定育成機構

医療情報部会活動予定

詳細については、今後 学会ホームページやメルマガなどでご案内いたします。



<https://www.jsrt.or.jp/97mi/index.html>

[編集後記]

医療情報部会誌 44 号をお届けいたしました。

巻頭言では谷川原綾子部会長より、AI や自然言語処理の発展と、部会再編に向けた最後の 1 年にかける思いが語られています。まさに「変化の時代」を象徴する節目の年となりました。

第 1 回日本放射線医療技術学術大会(沖縄)学術企画 報告医用画像情報の精度管理や国際交流、セキュリティを含むシステム仕様に至るまで、診療放射線技師の役割がより高度化・多様化している現状について共有いたただきました。

第 81 回総会学術大会(横浜) 第 45 回医療情報部会では、「2040 年を見据えた地域医療構想」や「医療画像診断機器の適正配置」をテーマとした講演やシンポジウムを開催し、持続可能な医療提供体制の在り方について多角的な視点から議論したいと考えております。

PACS Specialist セミナーでは「R 言語を用いたデータ分析」が実践的に紹介され、現場の業務効率化やデータ分析の一助になるよう R 言語の使い方や、データ分析のフローに直結する知識の共有が行われました。

これまで医療情報部会として積み重ねてきた研究・教育・ネットワークを基に、今後新たな枠組みのもとでも継承され得るような知見を蓄積し、さらなる発展につなげたいと考えています。ご寄稿・ご協力いただいたすべての皆様に深く感謝申し上げます。來たる新体制においても、本誌が医療情報に携わる皆様の一助となるよう活動していく所存です。

公益社団法人 日本放射線技術学会 医療情報分部会誌 2025. Apr. (第 44 卷)

令和 7 年 4 月 1 日発行

発行所 公益社団法人 日本放射線技術学会 医療情報部会

〒600-8107 京都府京都市下京区五条通新町東入東銘屋町 167

ビューフォート五条烏丸 3F

Tel 075-354-8989 Fax 075-352-2556

発行者 谷川原 綾子(部会長)

編集者 石川 智基、原瀬 正敏

ISSN 2189-3101
